

CODE 未来基金 阪神・淡路大震災 25 年特別企画シリーズ 「若者の生き方を語る～阪神・淡路大震災から 25 年を前に～」 報告

CODE 未来基金は 2015 年よりスタートし、NGO や市民活動を志す若者へのサポートを続けてきました。2016 年よりは CODE 未来基金プログラムをスタートし、CODE でのインターンシップや海外でのフィールドワークを公募し、実施してきた。これまでに 2 件のインターンシップ（半年間）、3 件の海外フィールドワークを採択し、約 30 名の若者が学ぶ機会を提供してきました。

本シリーズは CODE 海外災害援助市民センターと CODE 未来基金ユースグループの共同主催で行います。2019 年 10 月から 2020 年 2 月にかけて 5 回に渡り、かつて CODE 未来基金を活用してきた若者が現在どのように活動しているか、なぜ今の生き方を選んだのかを語るシリーズです。この企画を通して、市民活動を社会が支えるという考え、そして「もう一つの生き方」を選ぶことができる環境づくりへのヒントを探ってきました。

・開催概要

タイトル：CODE 未来基金 阪神・淡路大震災 25 年特別企画

「若者の生き方を語る-阪神・淡路大震災から 25 年を前に-」

会場：こうべまちづくり会館 2F ホール

第 1 回：2019 年 10 月 27 日（日）講師：久保陽香（「非電化工房」住み込み弟子）

第 2 回：2019 年 11 月 17 日（日）講師：羽田和真（NPO 法人「The Peace Front」スタッフ）

第 3 回：2019 年 12 月 22 日（日）講師：立浪雅美

（尼崎市「園田南」地域包括センター保健師）

第 4 回：2020 年 1 月 19 日（日）講師：西本楓（株式会社「BugMo」協働創業者・COO）

第 5 回：2020 年 2 月 9 日（日）講師：金益見（神戸学院大学講師）

※各回 14:00～16:00 開催

ウェブページ：「<http://code-jp.org/future-fund/miraikikin-hanshinawaji25th.html>」

主催：CODE 海外災害援助市民センター・CODE 未来基金ユースグループ

共催・協賛：近畿労働金庫

共催：コープこうべ・神戸市・神戸市危機管理室・神戸すまいまちづくり公社・
TeLL-Net・被災地 NGO 協働センター

後援：朝日新聞神戸総局・神戸新聞社・毎日新聞神戸支局・読売新聞神戸総局・
NHK 神戸放送局

※本事業は兵庫県が主催する「震災 25 年若者キャンペーンプロジェクト」の奨励事業として助成を受けています。

・各回報告

○第1回 「お金に依存しない自立した生活をめざして」

(久保陽香さん 「非電化工房」住み込み弟子)

10月27日開催 参加者36名

企画シリーズの第1回ということでいろいろと模索しながら進めていく回となりました。当日は環境や自給自足というテーマに関心が高い方にお越しいただきました。

久保さんが非電化工房での生活に至るまでの歩みや弟子入り中の現在の生活について語られました。四川でのフィールドワークでの光明村の循環する暮らしを目の当たりにする中で自給自足について学ぶきっかけ

を得て、屋久島での生活を経て、現在は非電化工房で農業や建築について学ぶ日々を送っています。



会の様子

○第2回 「学生のやりたいを見つける」 (羽田和真さん The Peace Front)

11月22日開催 参加者22名

第2回では現在はNPO法人The Peace Frontで学生のスタディツアーを運営している羽田さんが登壇し、自身の活動のルーツや未来基金やCODEに同行してフィリピンを訪れた経験が今どのように活かされているのかが語られました。参加人数は少なかったものの、会場とのやり取りを密に行うことができました。会の中では、日本国内の一極化している教育の評価軸など羽田さんが感じる教育の課題やフィリピンでの学びを深め、また教育分野の視点からフィリピンや現在の活動、将来についても語られ、大学、高校など教育機関の方との意見交換もされました。

○第3回 「コミュニティナースが取り組む地域支援」

(立浪雅美さん 「園田南」地域包括支援センター)

12月22日開催 参加者49名

第3回は、ネパールへのフィールドワークを企画し、尼崎市の「園田南」地域包括支援センターで保健師を務め、コミュニティナースとしても活躍する立浪雅美さんが語り手となった。保健師を目指したきっかけからネパールのフィールドワークでの学びと挫折、現在はコミュニティナースという保健師像を見つけて地域と関わり続けています。



○第4回 「昆虫食で世界の食システムに挑戦する」

(西本楓さん 株式会社「BugMo」COO)

1月19日開催 参加者43名

西本楓さんはフィリピンフィールドワークに参加し、四川フィールドワークを企画しました。その後、株式会社「BugMo」を起業し、現在は昆虫食をテーマにコオロギプロテインバーを製造、販売しています。第4回では西本さんが食について関心を持つようになったきっかけや2度のフィールドワークでは食というテーマとともに人に寄り添うということの大切さを学びました。取り組む昆虫食の一般認識などについても語るとともに、会場とのやり取りの中ではなく昆虫食という方法を選んだのかなどが話題に上がりました。

○第5回 「若者の生き方について考える」(金益見さん 神戸学院大学講師)

2月9日開催 参加者58名

最終回となる第5回は神戸学院大学の講師、金益見先生を語り手に迎え、金先生の多くの人との出会いのお話や、人生や身近なことを素敵にする方法など若者の生き方の道標となる講演をしていただきました。金先生は若者に対して、「こうあるべき」という答えを出さずに、いろいろな生き方があっていいと述べる中で、若者を後押しする言葉を紹介していただきました。



・総括

今回のシリーズでは、CODE 未来基金に関わってきた若者がそれぞれの学びを得て、自給自足やコミュニティナースなど多様な立ち位置で今も将来を模索する様子を見ることができました。これまでも未来基金では「もう一つの生き方」という言葉で若者の働き方やNGOとの関わり方を探ってきましたが、本企画を通して多様な市民社会に関わる若者が、災害時にそれぞれの分野を通じて被災地支援に取り組むという関わり方を見つけることができました。

企画を通して、同基金や災害ではなく各回の分野（自給自足など）に関心が高い方や近畿労働金庫（共催・協賛）の関係者の方が会を訪れ、これまでリーチすることのなかった方にも未来基金を知っていただく機会となりました。また、シリーズを通して、講演をいただいている神戸新聞より各回の講師を特集とした記事を出していただき、記事を通じて企画を訪れ、会員となっていたいただいた方もいらっしゃいました。今後、本企画の冊子や映像での記録集にしていくことを視野に、より多くの方の目に留まる媒体での発信を行っていき、未来基金のさらなる周知につなげていきます。